

平成23年度

敵を知り己を知れば百戦殆からず!
あやう

高校入試問題を知ろう!

入試はあくまで通過点

「夢」を語ってください

入試はもう始まっている!!

学校別実施内容決まる!

CONTENTS

平成23年度高校入試問題を知ろう.....	2
体験入学一覧.....	14
保護者の皆さんのページ.....	16
小学生のページ.....	17

面白コラム.....	18
ガクシンニュース.....	19
ざつがくパラダイス.....	20
夏期講習特集.....	22

学びの窓

最近、若者たちの「コミュニケーション能力」について危機意識を持つ人が増えていきます。実際、日本経団連が調査した「企業が採用選考で重視するポイント」では、最も多い回答が「コミュニケーション能力」で、以下、「チャレンジ精神」「主体性」が続いています。また、経済産業省の「企業が求める力」調査でも「発信力・傾聴力」が3番目の高さにあります。これから社会に出る人に対し、最重要視するのが資格や技術ではなく、「コミュニケーション能力」というわけですから、かなり深刻な状況のようです▼「コミュニケーション能力」とひと口に言いますが、その内容は様々。その1つに、情報伝達としての能力があります。相手の話をしっかりと聞き、その上で、自分の言いたいことを自分の言葉で伝えることです。簡単なようですが、あなたは相手の考えをしっかりと聞いていますか?「あの人は価値観が異なる」と言っても、何も話さないでいることはありませんか?社会に出れば、このような姿勢は通用しません▼相手の感情や気持ちを察しながら、相手に不快感を与えないタイミングや表現で、自分の感情や意思を伝えることも重要な要素です。一時期「K・Y」という言葉が流行りましたが、これはまさに、相手の感情に配慮できないことだと言えるでしょう▼ではどうすれば、このような能力が身につくのでしょうか。実に簡単なことです。目の前にいる多くの友だちと隔たりなく話す、これに尽きます。



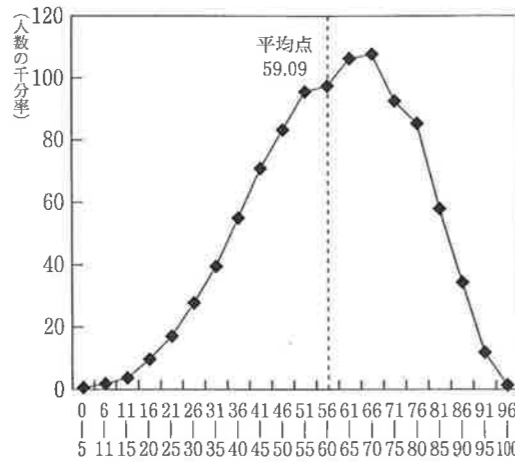
敵を知り己を知れば百戦殆からず

平成23年度

今年の3月に皆さんの先輩が受験した「平成23年度 公立高校後期選抜試験」の結果が、このほど長野県教育委員会から公表されました。今春は前期選抜を実施しない高校が28校出たことなど、大きな変更点がありましたが、入試結果においても、「数学の0点の人数が昨年の31人から70人に増加」「社会の平均点が前年より15点も下がった」等々、大きな特徴が見られます。

国語

平均点 **59.09** 点 (60.06)
100点の人数 **1** 人 (0)
0点の人数 **2** 人 (1)
標準偏差 **17.3** (18.6)
()内の数値は昨年度のもの。

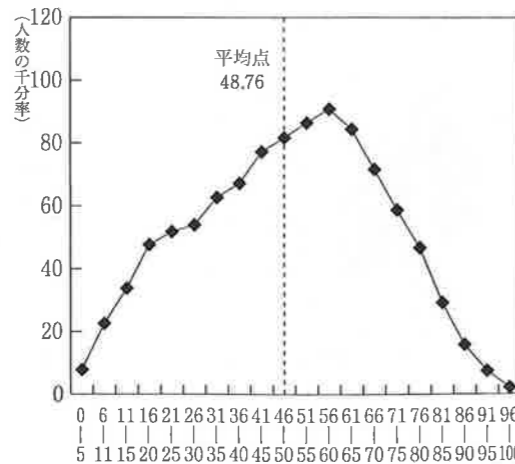


5教科で最も高い平均点 確実に得点する力を

国語は例年、得点分布図が左のような山型になっています。また、平均点より右側にそのピークがあります。つまり、得点の高い人から低い人まで、ほぼ平均しているという状況です。確実に点数を取っていかねばならない教科と言えるでしょう。平均点、100点の人数等々、ほぼ昨年と同じ状況です。

社会

平均点 **48.76** 点 (63.33)
100点の人数 **6** 人 (46)
0点の人数 **18** 人 (1)
標準偏差 **20.8** (20.7)
()内の数値は昨年度のもの。

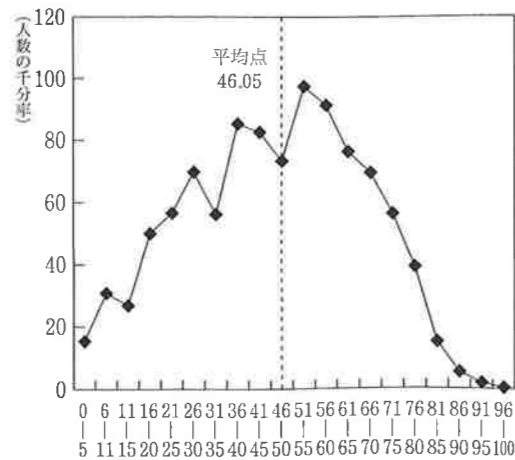


平均点が昨年より15点下降 “長野県問題”の形式に慣れよ

昨年に比べて平均点が約15点も下がり、それに合わせ、100点の人数が46人から6人に大きく減少、0点は1人から18人と大きく増加しました。長野県教育委員会では「資料問題等で、総合的に判断する問題が多かったため」と分析しています。資料問題が多いのは、長野県入試の社会での大きな特徴です。しっかり把握しておきましょう。

数学

平均点 **46.05** 点 (44.69)
100点の人数 **0** 人 (0)
0点の人数 **70** 人 (31)
標準偏差 **20.0** (19.8)
()内の数値は昨年度のもの。



0点が昨年の2倍以上に 大きい1点の重み

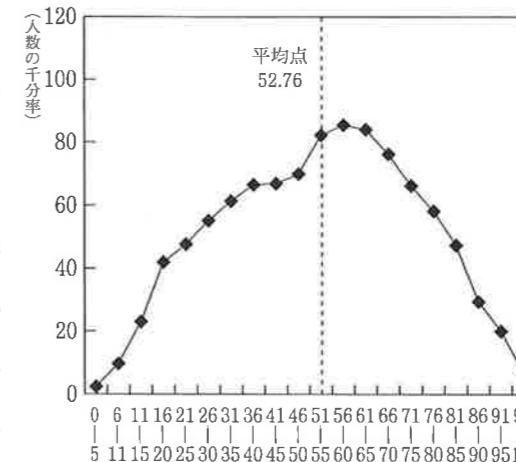
今春入試での数学の大きな特徴は、0点の人数の増加です。昨年の31人が70人に跳ね上がっています。長野県教育委員会では「昨年が一番の問題は-2+7(正答率98.7%)であったが、今年は2-(-5)(正答率96.0%)と少々難しかったため」と分析しています。また、得点分布図を見ますと、でこぼこしていますが、これは1点の比重が非常に重いことを反映しています。得点できる問題は確実に取っていくことが求められます。

高校入試問題を知ろう

中国の昔からの教えに「^{かれ}彼を知り^{おのれ}己を知れば^{あやう}百戦殆からず」というものがあります。彼(=敵)と己(=味方)の情勢をよく知って戦えば、何度戦っても敗れることはない、の意味ですが、皆さんにとっての当面する「敵」は「高校入試」。どんな内容で、どんな形式で、どんな特徴があるのか、じっくり知ることから始めましょう。なお「標準偏差」とは、得点のバラツキを示す値で、この値が大きいほど得点力の幅が広く、0点から100点まで幅広く散らばっていた、ということになります。

理科

平均点 **52.76** 点 (50.19)
100点の人数 **15** 人 (0)
0点の人数 **8** 人 (4)
標準偏差 **21.3** (21.1)
()内の数値は昨年度のもの。

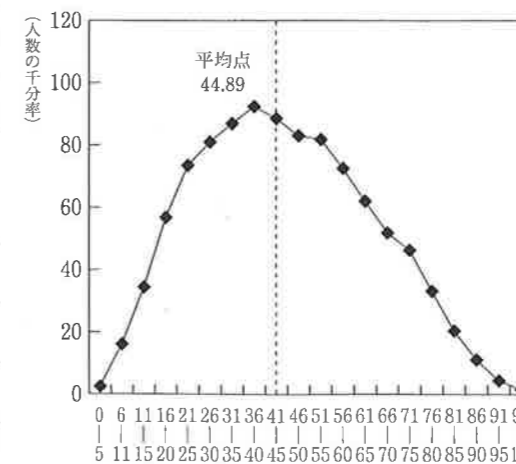


最も得点に差が出る教科 1問が得点に大きく影響

得点分布図は5教科の中で最もつぶれた形、高原型になっています。また、標準偏差も5教科で最も高くなっています。つまり、5教科の中で最も得点力の幅が大きい教科、言うなれば、平均点からはなれる人ほど1問のでき不出来が校内順位に大きく影響する教科といえます。昨年より標準偏差が上がりましたが、100点の人数も0点の人数も共に増えています。

英語

平均点 **44.89** 点 (48.45)
100点の人数 **0** 人 (17)
0点の人数 **0** 人 (2)
標準偏差 **19.5** (23.3)
()内の数値は昨年度のもの。



上位層が欠落 例年に比べばらつき小さく

英語は例年、得点力の幅が大きく、得点分布図は「高原型」もしくは「ふたこぶ型」になっています。今年は「ピラミッド型」になり、それほど得点力の幅は見られませんが、山のピークが平均点よりも左側にあります。これは上位層が欠落して、平均点前後に多くの受験生が集まっているためです。確実な力が求められます。

長野県教育委員会

問題作成の方針 = 思考力・判断力・表現力をみる

【全般的な出題方針】

- ① 学習指導要領に沿って、各教科の広い分野、領域にわたり、その基礎的・基本的な内容をもとに出題した。
- ② 各教科においては、知識・理解及び技能とともに、思考力・判断力・表現力等の学力が総合的にみられるように配慮した。

